

記念誌「相中相高八十年」より
(大正期 その3)

3 柔道・剣道部の活躍

相中の柔道部と剣道部はともに 1903 (明治 36) 年に武芸部として創設され、相馬藩時代からの士風と伝統を受け継ぎ、大正時代に入ってから馬陵健児の実力を遺憾なく発揮した。……

また、武道は一層奨励され、生徒綱領の中に取り入れて、これまで必修であった柔道と剣道は正課となった。……

1914 (大正 3) 年から開催された「福島県立中等学校武道大会^(註1)」では、柔道部は 2 回 (大正 4 年と大正 8 年)、剣道部は 1 回 (大正 5 年) 優勝^(註2) し、「馬陵健児ここにあり」と県下に相中の名声をとどろかせた。……



大正 4 年，初優勝した柔道部選手たち



大正 8 年，二度目の優勝を果たした柔道部



大正5年，初優勝の剣道部

「栄冠涙あり」で、当時の剣道部の練習は殺人的なものであったらしい。文武両道に悩む一部員の手記を掲げてみる。

剣道部員一同の意気込みは実に大したものである。朝は5時から7時まで稽古をした。日中の暑さと教室内に於ける眠さとに戦って一日の授業は終わる。早速日暮迄2時間或ひは3時間の稽古にとりかかる。自分ながらよくもこんなに身体が続くものだと驚く位であった。

実際に疲れる。稽古を終わって家に帰れば入浴と夕飯が仕事で、それが済めば寝るより外はない。他の人が受験勉強をしているなど聞いて自分も将来を考えて勉強しようと思はぬではない。然しながら机になぞ向かったものなら直ぐに居眠りが出て、手も足も蚊に喰われて血だらけになる。こんな時ばかりはもう選手のつらさをしみじみと感じて、名誉も何のその、選手でない人がうらやましく思はれる。

秋の運動のシーズンであることを思う時は一時と雖も徒に費すべき時ではないのである。然しこれも学校の名誉の爲めにと思ふと又大いに元気付かざるを得ない様になる。

(『学友会雑誌』第十八号剣道部報)

(註1) 柔道部が初優勝の大正4年の出場校は、相馬中学校、会津中学校、福島中学校、磐城中学校、安積中学校、福島師範学校、福島養蚕学校(成績順)の7校であった。

(註2) 優勝メンバー (出身地) は馬城会会員名簿による。

柔道：大正4年 渡部奉綱(大堀)、松枝茂(新山)、牛来不二夫、荒彰、黒沢正造(新地)、

佐々木亀一(中村)、末永孝蔵(石神)

：大正8年 荒源弥(福田)、管野當治(田村郡)、安部男也(福浦)、目黒孝清(新地)、片平多蔵(新地)、

永井善一(長塚)、目黒雄吾(新地)、井戸川森治(長塚)、野本栄吉(中村)

剣道：大正5年 宇井驥(磯部)、小松幸三、猪狩一(竜田)、佐藤章(中村)、西孝重(真野)、

佐藤利雄(真野)、渡辺武雄(双葉大野)

(9月9日 転記&文責 村山)